

「岩手県民への健康支援に寄与する総合的な看護研究

(地域で働く看護職の質の向上に関する研究)」

岩手県立大学看護学部地域看護学講座

三浦まゆみ(教授)、上林美保子(教授)、工藤朋子(准教授)、松川久美子(講師)、大久保牧子(講師)
岩渕光子(講師)、田口美喜子(助教)、藤村史穂子(助教)、蘇武彩加(助教)

< 要旨 >

本研究は平成 26 年度からの継続研究である。最終年度となった平成 28 年度はこれまでの研究成果のまとめに重点を置いた。以下に今年度の実績を記載する。

1 研究の概要

本研究は 2 つの研究活動から構成され、それぞれの研究活動について記述した。

【研究 1：地域看護職の養成課程の検討】

卒業時における保健師教育の技術到達度に関する調査

【研究 2：地域で働く看護職の支援】

1) 養護教諭ストレスマネジメント研修会

被災者支援担当者自身の癒しと被災者の心のケア活動につなげていくことをねらいとし、平成 26 年度から「動作法」を取り入れたストレスマネジメント研修会を県内各地で継続的に開催した。

2) 新人保健師研修会

PDCA サイクルに基づく保健活動の実践を目的に、就業 3 年以内の行政保健師を対象とした研修を実施した。平成 28 年度は岩手県中部保健所の要請に応じ研修会の支援を行った。

2 研究の内容

【研究 1：地域看護職の養成課程の検討】

平成 26 年度(統合カリキュラム)と 27 年度(保健師選択制カリキュラム)、それぞれのカリキュラム内容を履修した 4 年生に対し、厚生労働省の「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」に基づいた自記式質問紙調査を実施し、両者を比較検討した。

【研究 2：地域で働く看護職の支援】

1) について

本研修は平成 26 年度以降盛岡会場の他、東日本大震災被災地を会場に開催している。平成 28 年度は盛岡会場と大船渡会場で開催した。実技を通じてストレス対処行動を体験的に学んだ。

3 これまで得られた研究の成果

【研究 1：地域看護職の養成課程の検討】

統合カリキュラム履修者 72 名と保健師選択制カリキュラム履修者 39 名の回答結果を比較検討した。その結果、保健師選択制カリキュラム履修者の目標への到達割合が 1 項目を除いたすべての項目で統合カリキュラム履

修者よりも増加していた。特に地域看護職に必要なアセスメント能力の向上が顕著であり、選択制にしたことによる学習成果が表れていると判断された。この結果は平成 28 年度第 3 回拡大教授会で報告された。また、年度末に開催される地域看護学実習情報交換会において学生指導の資料として共有し、地域看護学実習運営の検討材料として活用している。

【研究 2：地域で働く看護職の支援】

1) について (写真 1、2)

養護教諭をはじめ子どもの心身の健康増進・発達発育に携わる関係者 23 名の参加があった。「緊張を強いられる場面でのリラックス法が体得できた」「自分をいたわるケアの大切さを実感した」などの感想があり、被災者の健康支援の実践者に対するケアの必要性が実証できた。



写真 1：盛岡会場での様子



写真 2：大船渡会場での様子

4 今後の具体的な展開

【研究 1：地域看護職の養成課程の検討】

効果的な授業や実習の展開方法に活用するため本調査を継続する。

【研究 2：地域で働く看護職の支援】

得られた知見に基づき、ケアギバーに対する支援のあり方を検討していく。

5 論文・学会発表等の実績

今年度の実績はない。

6 参考文献

【研究 1】 鈴木良美 他 (2016) : 保健師選択制導入における学生の技術到達度と実習体験に関する評価 日本公衆衛生雑誌 63 (7), 355-366.